

次世代ストーカ炉と従来型ストーカの比較

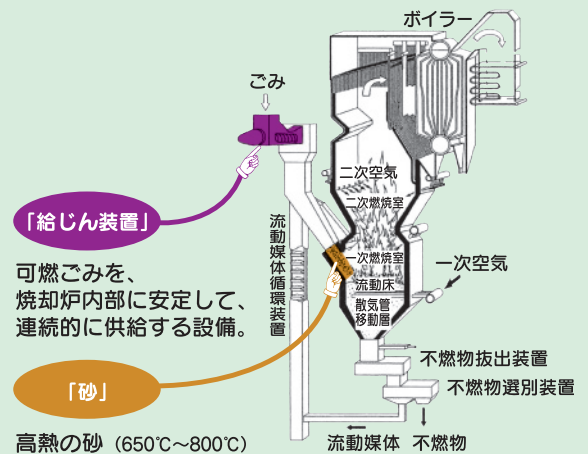
	次世代型ストーカ炉	従来ストーカ炉
空 気 比	1.30	1.60
排 ガ ス 量	次世代型ストーカ炉では従来式よりも低空気比運転を行うため約30%の排ガス削減となります。	
C O 濃 度	不完全燃焼によって発生する一酸化炭素が、低空気比燃焼でも従来式とほぼ同様の5ppm未満です。	
N O x 濃 度	燃焼時に発生する窒素酸化物の排出が、従来式の約半分です。	
ダイオキシン類	煙突からのダイオキシン類濃度は、次世代型及び従来式とも0.001ng-TEQ/m ³ N台の十分に低い値です。	

※参考文献：廃棄物学会研究会講演論文集

流動床式焼却炉

焼却炉内には「砂」が入っており、下から空気を吹き込むことによって沸騰したお湯のように躍り出します。

この「砂」を熱くし（650℃～800℃）、この中に細かくしたごみを投入すると瞬時に燃焼し、灰になります。



塩谷広域環境衛生センター



塩谷広域圏での処理方式は

塩谷広域圏内（矢板市・塩谷町・氏家町・高根沢町・喜連川町）から排出された可燃ごみは、地元の皆様のご理解とご協力により、氏家町松島にある「塩谷広域環境衛生センター」において、1978年（昭和53年）から焼却処理されております。現在の処理施設は、平成2年度から稼働しており、「ストーカ式焼却炉」を採用しています。

※ガス化溶融処理方式等の処理技術も掲載する予定です。

訂正：ニュースレターNo7（2p）の中で、「1990年の焼却施設稼働以来…」とありますが、これについては、「1978年（昭和53年）」からの稼働であります。